

令和3年度

レポート

京都府子育て支援団体交流会

2022年3月15日に令和3年度京都府子育て支援団体交流会をオンラインで開催いたしました。京都府こどもつながり応援隊事業補助金に採択されました子育て支援11団体より事業内容の発表の後、福知山公立大学 杉岡秀紀准教授のご進行で意見交換を行いました。ご応募いただいた市内の子育て支援団体や行政(市町村・保健所・広域振興局・企画参事付)の皆様にも地域を問わず参加、ご視聴いただきありがとうございました。運営スタッフからのレポートをお届けします！

ラシク

2021年1月から活動されているラシク。今年度初めて本補助金を活用されました。メンバーはキャリアコンサルタントの資格を持ち、現役の乳幼児ママです。“子育てとわたしらしく生きることの両立”をテーマに活動されており、本補助金ではNPO法人京都子育てネットワークとつながり、ワークショップとイベントを開催。キャリア＝仕事だけではなく、子育て・家族・自己実現などライフに係わる事すべてを指し、子育てという人生の転換期に改めてキャリアを考えた機会をご提供されました。また子育て広場利用者へキャリア面談ニーズのアンケートも実施され、多くの方が望まれている結果に。今後も“お母さんお父さんが私らしく輝く・繋がる・応援し合う”活動を進められるとのことでした！



NPO法人

子育ては親育て・みのりのもり劇場

昨年開発された会員制のオンライン子育てサロン「イクトモ」の機能を拡充！独自のトークサービスを搭載し、LINEと同じような機能を備え、かつLINEで懸念されている情報漏洩の心配なく繋がりが持つことが可能に。現在モニター調査中だそうです。また、登録なし、二次元コードを読むだけで参加出来るデジタルスタンプラリーのテスト開催を実施され、子育て支援拠点に足を運んでもらうきっかけに貢献。コロナ禍をきっかけに様々な角度から子育て支援、地域の活性・繋がりが実現されています。



認定NPO法人 FaSoLabo京都

残念ながら交流会当日はご欠席でしたが、協働されたNPO法人グループアップに発表いただきました。

昨年度に培った“あおぞらプロジェクト”のネットワークを今年度も活かし、同じ京都府子育て支援認証団体である、おひさまと風の子サロン、グロアアップ、子育ては親育て・みのりのもり劇場と共に「子ども・子育て支援団体の再資源化による子ども・子育て支援のソーシャルサポートネットワークの構築～次世代へ渡すバトン～」をテーマにモデル事業実施と、実施のための調査に取り組みされました。社会福祉協議会や企業、次世代と上手く連携されている子育て支援団体から聞き取りを行い、実際にモデル事業を行い、他(多)セクターや団体間のソーシャルサポートネットワークの必要性を改めて認識されたそう。今後も行政への提言を含め協力を進めていきたいとのこと。発表中に示された“明るい未来にしたいね”というお言葉はとても印象的でした。



NPO法人 京都子育てネットワーク

旅館とタッグを組み産後のお母さんのケア「0歳ママのための元気をチャージ・ディステイ」を実施。

ディステイとは保育付きで交流・休息・学びが出来、ママの元気をチャージする事業の造語で、行政サービスとの差別化を図られました。産後のニーズ調査も行った結果、昔に比べ母親へのケア(ゆったりくつろげる時間の確保・子育て仲間づくりのための交流・睡眠時間の確保)がトップ3という結果に。正にディステイ事業とマッチしており利用者さんから高い満足度を獲得されました。アンケートでは参加したいと答える方が多い一方で、参加費・場所が合えば参加したいという条件付きであり、この2つの条件が合えば持続可能なシステムになることを確信。

子育て支援団体、行政が協働でモデル事業として横展開を図るための予算の獲得に努め、京都府内で産後のニーズトップ3を満たすシステム作りしていきたいという意気込みをいただきました。



〈講評〉杉岡 秀紀氏 福知山公立大学地域経営学部 准教授

本成果報告に参加させていただき、感じたことは以下の3点です。

1点は発表方法もさることながら、zoomを活用してのイベントや会議の実施など子育て支援団体の皆さんの取り組みも非常にニューノーマルとなってきたということです。オンラインとリアルの両方を使い分けたり、組み合わせたりすることはコロナ禍が空けても必要な視点でしょう。

2点は越境性の高まりです。京都府は南北に長い地域なので、きっかけがなければ基本的には北部と南部の子育て支援団体が連携することはないと思います。それが近年、地域(自治体)の枠を超えた連携事業というものがとても増えました。イノベーションは非連続から生まれます。その観点からもうこうした越境型の交流やコラボは今後も大事にして頂きたいと考えます。

3つは課題解決アプローチの多様性です。近年孤立という病を地域の繋がりを通して治す「社会的処方」という考え方が注目されていますが、今回発表いただいた11団体はまさに「子育て分野の社会的処方」と言っても良いと思います。もともと地域課題は無縁であり、簡単に解決できるものではありません。それだけにこうした意見交換、情報交換がますます重要となるのではないのでしょうか。

ともあれ、私自身が毎回一番勉強になっております。この場をお借りして、今回発表いただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。

NPO法人 おひさまと風の子サロン

「福知山市における子育て支援ネットワークの拡充(官・民・学のスクラム)」をテーマに、企業の子育て環境づくりに関する調査と子ども食堂の状況及びニーズ調査を実施されました。中丹100人会議に参加された企業にアンケートを実施。企業が「子育て支援に取り組む」ということに関心が薄く、「なぜ企業が子育て支援を行うのか」の意味を訴える必要性を感じられたそう。子育て環境の整備(社内保育園等)をしたいと考えているが実現困難という意見も。



子ども食堂へのアンケートでは3団体で回答の傾向が全く違い、子ども食堂にも様々なタイプがあることに気付かれ、来年度は社会福祉協議会を含めどのように繋がって行くかが課題とのこと。今後の更なる繋がりに可能性の広がりを感じさせてくださるご発表でした。

一般社団法人 日本ファミリーナビゲーター協会

「多様性の時代の家庭教育支援」をテーマにまちづくりサポートクラブと協働し、今年度初めて本補助金を活用されました。北部の団体と繋がり「家庭教育支援分野」をご担当。団体名が示す通り「家族」を支援することを目的とされている団体です。普段行っている産前産後のご夫婦へのセミナープログラムを支援者へご紹介。また、支援者向けテキストの作成に支え取り組まれました。



家庭教育支援の中で「産後、夫婦に起きること」や「夫婦コミュニケーションのコツ」を伝え、親になることを学ぶことでお互い尊重出来る自立した家族を目指されているとのことでした。「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ、というワードが大変印象的なご発表でした。

一般社団法人 いんふんとroomさくらんぼ

平成28年から本補助金を活用され、今年度は「新しい時代の子育て支援講座の開発事業」を実施。保育園事業も行われている経験から、入所時に生活スキルや経験不足の子どもが多くなっている事に着目。また、保育園と保護者との関係性についても変化を感じていることから「1歳児でスムーズに保育園に入るために」というオンライン教材を制作されました。今後、多くの人に見てもらえる様に動画のクオリティ向上や発信方法を検討中とのこと。公開が楽しみです！



NPO法人 そよかぜ子育てサポート

コロナ禍での母親の孤立化に着目し、託児付きでほっこり出来る「お茶マルシェ」を開催。子育て家庭への有償ボランティアのサポートグループ「ナラダ・ママ」の20年以上の活動で培った経験から、“おしゃべり”は心が整理され悩みやストレスが解決されるとも大切な事と実感し、「お茶マルシェ」でいろんな方と交流の場を提供されました。「ナラダ・ママ」ならではの視点でこれからも子育て支援を続けていきたいと心強いお言葉をいただきました。



NPO法人 まちづくりサポートクラブ

中丹から丹後地方と広範囲に活動されており、支援者研修シリーズとして「産前産後ケア分野」を実施。中丹東保健所や丹後保健所と連携を取りながら訪問支援員にも呼びかけ開催。京丹後市や与謝野町でも開催し、行政関係者からも参加があったそう。NPO主催の研修に行政関係者が来られることに大きな意義があったと感じていただいたそう。青森県からも講師の方を呼ぶことが出来、遠くからも呼べるのがつながらり応援隊事業の特徴とお言葉。



地域に根付きながらもエリアを拡充して活動に取り組みされました。「今後も多種多様な支援者が共に学びながら支援者自身が顔の見える繋がりをつくるきっかけを作っていくたい」と意気込みをいただきました。

NPO法人 子育てを楽しむ会

当日は残念ながらご欠席で事前録画した動画で発表いただきました。今年度は産後の母親の身体の休息、ケアに着目した動画「産前産後のなっとく楽しくセルフケア」を作成されました。



人間は本来1人で出産・育児は出来ない生き物。それにも拘わらずコロナ禍で母親1人や家族だけで何とか乗り切ろうとしています。本日はもっと休んで欲しいという思いがあるが、中々その重要性をお伝えするのが難しかったそう。その思いに共感して下さった鍼灸師でもありボディケアセラピストの安藤先生の監修・指導のもとに産前産後の方が、少しでも心地良く過ごせるように願って動画作成に取り組みされました。

YouTubeで視聴可能なのでぜひHPからアクセスください。



子育ての文化研究所

赤ちゃんの事に特化し支援を続けられている子育ての文化研究所。このコロナ禍で、子育てを自己責任として背負っておられる方が非常に多いことを感じられました。“子どもはうるさい”と言われる状況をどこから、何から見直さなければならないかを考え、その手立ての一つとして、啓発ポスターを作成されました。

いろんな方に子育ての現状を知ってもらい手をさしのべてもらえるところが少しでも増えて、“みんなで子育て”が出来る地域となるよう作成されました。子育ての文化研究所のHPからダウンロードも出来ますとのこと。子育て支援の場などでぜひご活用ください！

